

システム強化に活用する方策について検討した。

(倫理面への配慮) 今回は、本研究の趣旨を説明し理解した上でインタビューを行ったので、まったく問題はなかった。

### C. 研究結果

1) 参加国では日本の母子健康手帳がモデルとなっており、その魅力と利点が以下の3点にまとめられる。①今までばらばらのカードになっていた妊婦用、乳幼児用の記録カードや健康教育教材が一冊にまとまることによる利便性と経済性、②home-basedの記録と情報源として、母親や家族への知識や意識の向上に寄与する効果、③母子保健サービスの質を改善するため(健康教育教材として、ミニマムサービススタンダードとしてなど)

母子健康手帳の特徴と核となるコンセプトを共有しながら、それぞれの国でその利用に工夫されていることも非常に興味深い。

#### 2) 財政と地方分権化について

地方分権化と保健予算削減の中、母子健康手帳の予算確保は最も大きな関心事の一つである。各国での経験と取り組みから、財源確保のための以下のような取り組みが提案された。①コストシェアリング・ユーザーフィーシステム(受益者負担システム)、②アンブレラ・システム、③ソーシャル・マーケティングの実施、④政府の努力、⑤ドナーとの協力、⑥関連プロジェクトとの連携、⑦母子手帳継続の政策的アプローチ

また、地方分権化と中央・地方政府の役割については、フィリピンのように、保健を含む社会保障分野で地方分権化が急速に始まっているが地方のキャパシティが追い

ついていない国や、ラオスのように、保健分野や学校はまだ国の統括で分権化していない地域があり、その役割は多様であるが、財政も力も足りない中で母子手帳プログラムに必要な全てのステップを地方政府に委ねるのには無理があると言えよう。従って、中央政府では一つの政策を打ちたて、その実施は地方政府が担うという方法が望ましい。具体的な分業体制としては、中央政府において内容の開発・改定、プレテスト、印刷、TOT(Training of Trainer)を実施し、地方政府が、フロントライン・ワーカーへの研修、印刷・配布、そしてモニタリング・評価を実施することなどが提案された。

### D. 考察

母子健康手帳という一つのツールを使い、核となる内容やコンセプトは各国共通であった。しかし、母子健康手帳の目的、費用負担(無料あるいは有料)、配布方法や配布場所、手帳の大きさや重さ、などは、それぞれの国で工夫されていた。日本の母子健康手帳からヒントを得たというコメントは多く聞かれたが、実は、各国の母子保健専門家たちは換骨奪胎して、全く新しい母子健康手帳を作っているのである。

### E. 結論

日本の保健医療のなかに存在するもののうち、「古いものをまねながら、自分なりの新しい工夫を加え、新しいものを作り出す」という意味での換骨奪胎が可能なツールが、途上国で応用可能であろうと考えられた。

### F. 健康危険情報

特記事項なし

G. 研究発表

1. 論文発表  
なし

2. 学会発表

なし

- H. 知的財産権に出願・登録状況  
該当せず

## 別添6

## 研究成果の刊行に関する一覧表

## 研究成果の刊行に関する一覧表レイアウト

## 書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の 編集者名	書 籍 名	出版社名	出版地	出版年	ページ
佐藤寛	援助におけるエン パワーメント概念 の含意	佐藤寛編	援助とエンパ ワーメント	アジア経 済研究所	千葉	2005 年	pp.3・24
池野雅文	開発援助における 社会的準備とエン パワーメント	佐藤寛編	援助とエンパ ワーメント	アジア経 済研究所	千葉	2005 年	pp.105・1 30

## 雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
中尾優子、門司和彦、 大石和代、松尾奈美子、 Mahmudur PAHMAN, Meejady Sabrina FLORA、 後藤利江	Bangladesh・ダムライ 郡の分娩・授乳状況—妊 婦、乳幼児をもつ母親、伝 統的産婆、地域家族福祉補 助員、看護師への集団面接 結果—	日本民族衛 生	第70巻 第3号	112-122	2004年